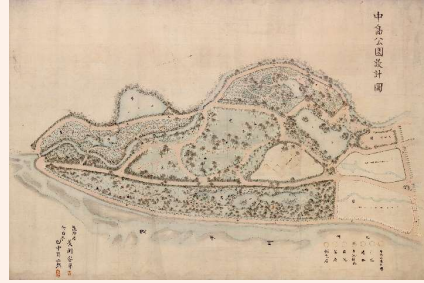


中島公園魅力アッププランの検討について

1 概要と課題

公園の概要	【所在地】 札幌市中央区中島公園、南14条西5丁目（ほか） 【種別】 総合公園 【面積】 236,295㎡
【中島公園の変遷】	
明治4年（1871年）	豊平川から流送される木材を貯める貯木場として利用
明治20年（1887年）	太政官布達（国内初の公園制度）での札幌初の公園として「中島遊園地」設置
明治40年（1907年）	東京市嘱託技師 長岡安平が中島公園を設計 清流や池・藻岩山への眺望を活かし、自然の風致を織り込んだ「池泉回遊式」の庭園として設計される
大正7年（1918年）	開道50年記念北海道博覧会開催
昭和24年（1949年）	中島球場整備（昭和55年廃止） 中島児童会館設置
昭和32年（1957年）	総合公園として告示
昭和33年（1958年）	北海道大博覧会開催 （豊平館移設 子供の国開園）
平成5年（1993年）	中島公園再整備構想策定
平成6年（1994年）	子供の国廃止（翌年 円山動物園に移転）
平成7年（1995年）	再整備工事開始 Kitara 建設（～平成9年（1997年）完成）



長岡による設計図

背景

札幌市では2030年度に北海道新幹線開業が予定され、中島公園周辺ではマンション等の建築による定住人口の増加に加えて、新MICE施設やホテル建設が予定されるなど、新たな土地利用転換の機運が高まっている。

また、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、集客・交流機能や芸術・文化機能の強化を図る新たな高次機能交流拠点の形成を目指している。

課題

中島公園は、豊かな自然と貴重な文化施設が多様な楽しみを生む、魅力溢れる都市空間である一方、一部施設の老朽化や、地下鉄幌平橋駅出入口の駐輪場の飽和状態といった課題に加えて、公園の魅力を活かした設えや情報発信が不足している。

また、周辺環境の変化による多様な人々のニーズに対応した設えや取組にも課題を抱えている。課題解決にあたっては、公園の特徴を活かしつつ、周辺のまちと連携・調和を図り、子どもから大人まで、来街者も含めた多様なライフスタイルを支える快適性の高い環境整備が求められる。



春の中島公園（園路）



秋の中島公園（日本庭園）

2 考慮に入れる主な事柄

歴史性、位置付け	従来からの役割	周辺のまちづくりの動向	第2次まちづくり戦略ビジョンの位置づけ	公園に求められる社会的要請
<ul style="list-style-type: none"> ○ 明治20年（1887年）に「中島遊園地」として整備 ○ 明治40年（1907年）長岡安平が「池泉回遊式」の庭園として設計 ○ 北海道博覧会、国民体育大会の会場となるなど、時代に即した整備を実施 ○ 平成の再整備では、豊かな緑地空間として芸術・文化の拠点を形成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都会の喧騒から一線を画すみどり豊かな憩いの空間 ○ 藻岩山への優れた眺望である景観軸 ○ 芸術・文化が感じられ、体験できる空間 ○ さっぽろまつりなど多く人々が訪れるイベントが開催される賑わいの空間 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想 <ul style="list-style-type: none"> ・公園に隣接する民間ホテル敷地にMICE施設の整備構想 ・質の高い宿泊機能の誘致 ・アフターMICEや夜間観光の魅力向上に資する環境の充実 ・地区に点在する地域資源を活用するための情報発信と快適に街歩きを楽しめる歩行空間の確保 ○ 豊水通沿道の民間敷地（2カ所）での高級ホテルを誘致した開発事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中島公園周辺エリアを新たに集客・交流機能や芸術・文化の強化を図る拠点として、高次機能交流拠点に位置づけ ○ 国際的・広域的な観点を持った都市機能の高度化や集積に向けて、民間活力を生かしながら、必要な都市基盤・施設の整備などを行う ○ みどり豊かな都心を形成するため、公園などにおけるみどりの整備・改善に取り組みとともに、再開発の機会を捉え、官民連携による効果的なみどりの創出をすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> <環境> みどりの確保のほか、省エネ、リサイクルなど、脱炭素化に資する公園づくり <ユニバーサル> 誰もが利用しやすい公園づくり <ウォーカブル> 歩いて楽しい街づくりに資する公園づくり <防災・安全> 長く安全に利用できる老朽化対策や防災機能を一層高めた公園づくり <デジタル> デジタル技術と連携した未来型の公園づくり

3 3つの方向性と具体化に向けた検討の視点

方向性1 今あるみどりや芸術・文化を磨き高める

- 検討の視点**
- ① 歴史性や季節ごとの魅力の再確認
 - ② みどりと芸術・文化が相乗効果を生む取組
 - ③ 日常的な利用環境の充実と情報発信

方向性2 新たな機能により魅力を向上する

- 検討の視点**
- ① 国内外の観光客のニーズを満たす機能
 - ② 冬にも集客可能な機能
 - ③ 子どもが楽しめる機能
 - ④ 施設の更新に合わせた公園に相応しい機能

方向性3 周辺エリアも含めて活性化させる

- 検討の視点**
- ① 指定管理者と周辺事業者との連携
 - ② 周辺事業者による公園の活用
 - ③ 周辺に波及させる公園の魅力向上
 - ④ 周辺と補完関係を築き回遊機能を高める公園運営

◆検討のスケジュール

令和5年11月2日 第1回検討会 **今あるみどりや芸術・文化を磨き高める**
令和5年12月18日 第2回検討会 **新たな機能により魅力を向上する**

令和6年3月上旬 第3回検討会 **周辺エリアも含めて活性化させる**
令和6年4月以降 第4回検討会（仮） **議論を踏まえた取組の方向性**

令和6年秋頃 第5回検討会 **中島公園魅力アッププラン（素案）の検討**
令和6年冬頃 第6回検討会 **中島公園魅力アッププラン（案）の検討**

令和6年度中 **★とりまとめ**

1. 歴史性や季節ごとの魅力の再確認

【中島公園の歴史性】

▶中島公園の変遷

■ 様々な役割を担い、開拓期からの歴史性を受け継いできた公園

- 開拓期に貯木場として利用された土地が明治時代に住民要望から公園となる
- 明治40年に長岡安平により、池の水景、藻岩山への眺望を活かし、自然の風致を織り込んだ「池泉回遊式庭園」として設計された
- その後、遊園地、博覧会会場など様々な活用され、開拓期からの歴史性を受け継いできた

▶平成の再整備（平成7年～平成10年）

■ 公園の成り立ちや変遷を踏まえた再整備

● 中島公園再整備構想報告書（平成5年）

➢ コンセプト

「都心の芸術文化・歴史ゾーン」として、都心部の発展に呼応しながら、歴史・文化・芸術が水と緑の中に重層化する公園

➢ 再整備の要件

長岡安平の作庭様式を継承した風景式庭園を作り出し、作庭の契機となった鴨々川の水景と藻岩山の眺望を活用する

● 中島公園再整備基本計画（平成6年）

➢ 土地利用計画基本方針（一部抜粋）

【北入口広場】	札幌駅前通の南北軸の通景を受ける構築的広場
【ボードウォーク】	北入口広場からの周遊動線の分岐点 水と緑、藻岩山への眺望を体験する場
【水草の庭】	小さな池・流れを持つ開放的な日本庭園 北側入り口から公園西側へと導く景観の構成要素
【芝生広場】	緩やかな起伏を持つ芝生広場 奥行き感や四季感を演出する植栽
【鴨々川】	道路と公園を一体化する介在空間 緩傾斜の芝生護岸を設け、散策途中の休憩所とする
【プロムナード】	植栽による公園と街並みの一体感の演出

➢ 動線計画基本方針（一部抜粋）

- ・ Kitaraへのアクセスや景観の移り変わりを楽しむ公園として、機能的には大量の移動に対応できるものとする。
- ・ 日常散策や観賞に耐える“水と緑”、“緑と地形”で構成された動線、“分節と結節(回遊するポイント)”になる興味地点などの動景観のシナリオを用意する。

▶札幌市都心のみどりづくり方針（令和5年10月策定）

■ エリアとしての役割や公園の歴史を踏まえた取組の位置づけ

- 「中島公園周辺重点エリア」の位置づけ
- 主要事業に「中島公園の魅力アップに向けた機能の強化」を位置づけ

新たな可能性

中島公園駅周辺のまちづくりエリアの拠点化、新MICE施設、都市公園に求められることの変化 など

検討の視点

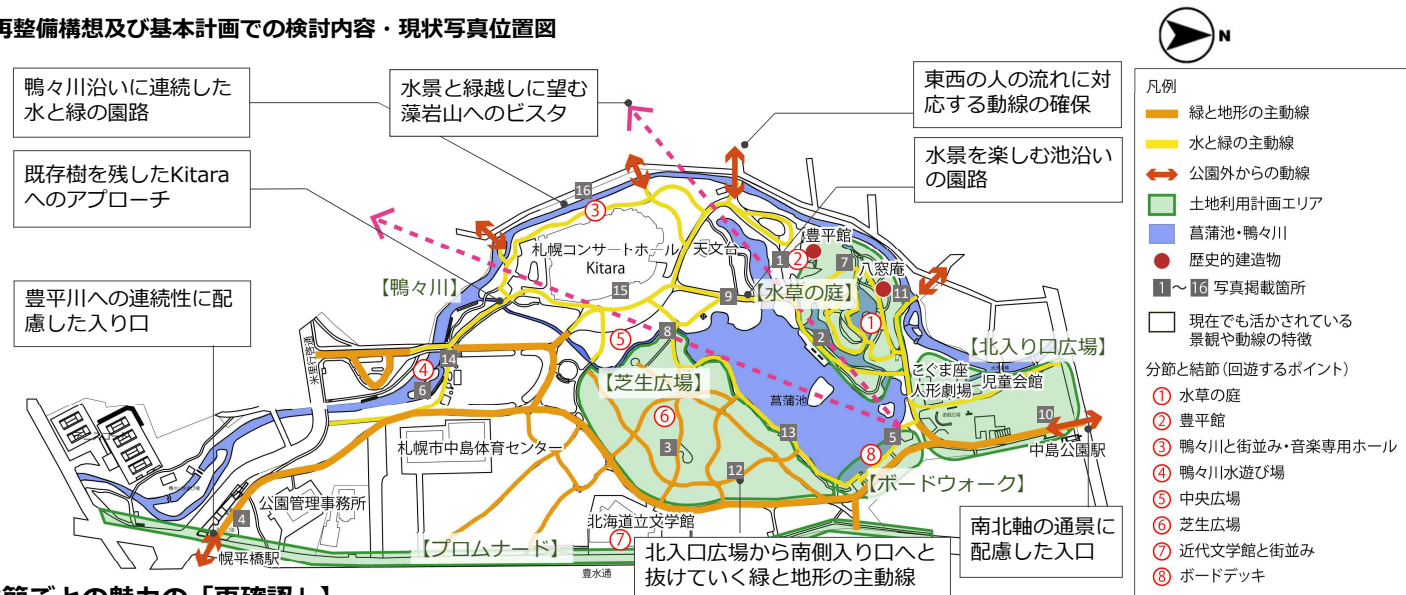
歴史、景観、芸術・文化、健康・スポーツ、公園運営、国内外の来街者への対応、子どもの利用、まちづくりへの貢献など



取組イメージ

- 中島公園の魅力向上に向けた検討を行います
- 民間資本の活用に向けた検討を行います

▶再整備構想及び基本計画での検討内容・現状写真位置図



【季節ごとの魅力の「再確認」】

▶季節ごとに变化する景観要素（植栽・水景・彫刻・建築物）



課題

- 公園の成り立ちや変遷を踏まえた平成の再整備のコンセプトは、現在でも活かされており、植栽・水景・景観が織りなす季節ごとの魅力となっている一方で、その魅力のすべてを伝えきれておらず、認知されていない
- 魅力的なスポットはあるが、込み入った植栽などが立ちよりにくい雰囲気となり、利用者の集まる場・休息の場に偏りがある

考察

- 再整備のコンセプトを継承する一方で、季節ごとの魅力をより多くの来園者に伝えるために、改善すべきことはなにか
- 利用者が公園内を回遊し、たたずむ場を提供することで、より多くの魅力が伝わるのではないかと

2.みどりと芸術・文化が相乗効果を生む取組

【みどり(指定管理者)】

【芸術・文化(各施設)】

- ◆ 自主事業
- ◇ 公園内・周辺施設との連携事業
- その他事業

▶札幌市公園緑化協会

○主な取組状況

- ◆キッチンカー事業
- ◆生き物観察会 ◆野鳥観察会 ◆ガイドツアー
- ◆くつろぎVILLAGE IN SAPPORO
- ◇子ども菜園(児童会館利用者対象)
- ◇ゆきあかりin中島公園 ◇かもくま祭への出店
- ◇ピクニックシアター
- ◇協議会(コロナ禍以降メールでの情報交換)
- さっぽろまつり ■ 灯籠流し
- さっぽろ園芸市(今年度は中止)
- さっぽろランタンフェス



▲くつろぎVILLAGE



▲野鳥観察会



▲ゆきあかり



▲灯籠流し



▲さっぽろまつり



▲ランタンフェス

※日本庭園

- ・市内に日本庭園は少なく、無料で撮影(商用は有料)できる場所も珍しいため、需要は多い。
- ・着物を着た外国人が写真撮影している姿もある。

○連携できる事業アイデア

- ・人の多い時間帯を狙ったキッチンカーの出店

▶豊平館

○主な取組状況

- ◆観覧 ◆貸室 ◆喫茶の運営 ◆グッズ販売
- ◆料理/工作教室 ◆文化財・歴史的資産に関する講座
- ◆サロンコンサート
- ◇ゆきあかり ◇子ども講座「豊平館の★をたどる宇宙の旅」



▲豊平館外観



▲豊平館まつり

○連携できる事業アイデア

- ・ホテルや飲食店などと連携し、貸室・厨房を活用したイベントなど
- ・スタンプラリー

▶文学館

○主な取組状況

- ◆展覧会事業 ◆貸館 ◆物販 ◆喫茶(個人事業者) ◆子供向けイベント:人形劇や読み聞かせ・手作り教室等 ◆一般向けイベント:講演会や書籍のフリーマーケット



▲文学館外観

○連携できる事業アイデア

- ・公園内施設との協議会再開
- ・地下鉄付近に情報発信ステーション設置
- ・時間ごとの散策コースプランの提案
- ・写真撮影への協力、場所の提供や情報発信、ビューポイント
- ・イベント開催時のプロジェクションマッピングへの壁提供
- ・フィルムコミッション
- ・ごみ拾いとレクリエーションのセット
- ・スタンプラリー
- ・ホテルとの連携、相互宣伝



▲工作会

▶天文台

○主な取組状況

- ◆星空解説 ◇ゆきあかり
- ◇子ども講座「豊平館の★をたどる宇宙の旅」



▲天文台外観

○連携できる事業アイデア

- ・ソリの貸出と天文台見学のセット
- ・レクチャールーム等、多くの人が集まれる場所で解説
- ・ランニングコースや歩くスキーなど、公園と連携しての取組



▲H30年火星観望会

▶児童会館・こぐま座

○主な取組状況

- ◆人形劇の上演(こぐま座) ◆人形劇の人材育成
- ◆グッズ販売 ◆料理/工作会
- ◇かもくま祭り(開館記念日祭り)
- ◇ピクニックシアター(公園内ピクニック兼人形劇) ◇野外人形劇(ゆきあかりとタイアップ)
- ◇青空キッズシアター



▲児童会館外観

○連携できる事業アイデア

- ・観光客を意識した連携
- ・札幌ならではの遊び



▲冬の野外劇場



▲こぐま座外観

▶Kitara

○主な取組状況

- ◆主催公演 ◆貸館事業
- ◆グッズショップ ◆公演情報誌の発行 ◆ファーストコンサート(札幌市及び近郊の小学6年生のためのコンサート) ◇パースデーコンサート(R4はオルガンと人形劇とのコラボ企画) ◇レストラン・カフェコーナーの運営
- ◇アフタヌーンコンサート(レストランの割引)
- ◇ゆきあかり



▲Kitara外観



▲あらからと マルシェ

○連携できる事業アイデア

- ・スタンプラリーなど、客層の若年化への取組
- ・全国的なイベントや映画撮影などを活用した認識拡大や活性化
- ・ブランドホテル宿泊と演奏会のパッケージ

▶中島体育センター

○主な取組状況

- ◆教室実施 ◆一般開放
- ◆専用利用(貸館) ◇歩くスキー事業 ◇さっぽろ街ラン
- ◇ナイトクロカン ◇ゆきあかり ◇鴨太川ごみ拾い



▲中島体育センター外観

○連携できる事業アイデア

- ・歩くスキー事業への観光客呼び込み
- ・施設整備によるさっぽろ街ランの活性化
- ・トレーニング施設としてホテルとの連携
- ・都心部の緑化空間を生かしたカフェやキッチンカー用のスペース等



▲ゆきあかり

- 課題**
- 各施設がバリエーション豊かな活動をおこなっているが、連携しての事業は少ない
 - 目的以外の施設を訪れるきっかけとなる事業が少ない
 - 連携できる事業アイデアはあるものの、実施することが出来ていない
 - 中島公園地域コミュニティ推進協議会が十分に機能を発揮していない

- 考察**
- 来園者が利用目的の施設を訪れる機会を捉えて、公園のみどりや他の施設にも興味を持ってもらえるような連携した事業を実施することで、公園全体の魅力を感じてもらうきっかけとなるのではないかと
 - 連携した事業を実施するにあたっては、計画・実施・検証・改善まで行う体制が必要ではないかと。また、その体制をどう構築するか
 - 見どころを伝えるインフォメーション機能や、管理事務所にパークセンター機能を持たせることが必要ではないかと

- ※中島公園地域コミュニティ推進協議会
- ・園内各施設や近隣ホテル等にて組織
 - ・対面で年2回の会議を行っていたが、新型コロナウイルスの影響により、現在は連絡会的な存在としてメールでのやりとりをおこなっている

▶他公園の事例

- 金谷公園Digital1.0
【青森県むつ市】デジタル技術を活用した公園協議会。公園で活動する方や周辺施設の関係者がデジタルコミュニケーションツールを活用し、イベント情報や公園活用の推進に向けた意見などを共有できる場として運営



3. 日常的な利用環境の充実と情報発信

【日常利用】

▶公園内の各施設



▲ベンチ (123基)



▲シェルター



▲遊具 (3箇所)



▲トイレ (7箇所 全て身障者対応 冬季開放2箇所)



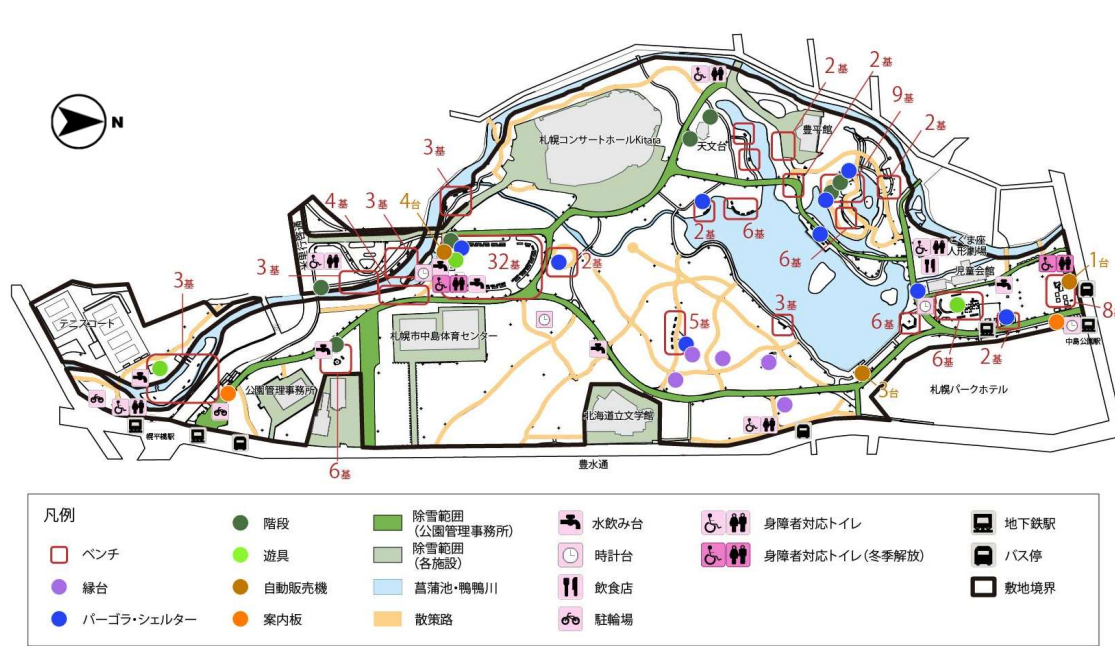
▲駐輪場 (3カ所)



▲案内板

(他) ・水飲み台 6箇所
・緑台 5箇所
・時計台 4箇所
・川遊び場

▶各配置図



▶回遊環境を左右する要素



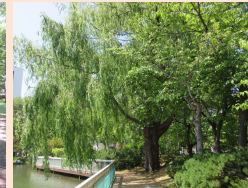
▲軽食 (飲食環境)



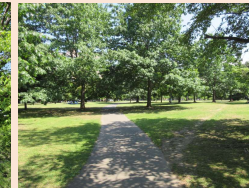
▲園路灯



▲樹木の過密化



▲樹木の大型化



▲散策路



▲冬の園路

(他)
・自動販売機
・除雪範囲

課題

- ベンチの配置・水飲み台やテーブルの不足
- 樹木の過密化・大型化によって見通しが悪い
- 散策路の利用が少ない、わかりづらい
- みどりの季節ごとの美しさが伝わるライトアップがされていない
- 遊戯施設・飲食施設の魅力不足 (第2回検討)

考察

- 利用者の居心地が良い空間・滞留したくなる空間の設えとはどのようなものか
- 散歩や休憩などの日常利用者が求めていることは何か
- 公園全体を回遊し、魅力を体感してもらうためにどのようなことが必要か
- 利用者が公園内を回遊し、たたずむ場を提供することで、より多くの魅力が伝わるのではないかと

▶事例

- チェアリング、貸出椅子
- ・可動椅子で自由に座れる場所づくり (ニューヨーク ブライアントパーク)
- ・エアソファ、ハンモックの貸し出し (大阪府泉佐野市 りんく公園)



▲ブライアントパーク



▲貸出エアソファ

出典
・留学ロコサイト
「留学thank you!」
・りんく公園HP

【情報発信】

▶指定管理者

- ・札幌市公園緑化協会ホームページ
- ・中島公園リーフレット
- ・中島公園三十三選

▶札幌市の観光・文化関係

- ・ようこそSAPPOROホームページ
- ・SAPPOROぶらり手帖 中島公園界限

▶市民からの情報発信

- ・中島公園パーフェクトガイド「中島パークエ」
- ・たびらい
- ・公園周辺ホテルでの紹介

▶他公園の事例

- ・滝野すずらん丘陵公園
エリア別の施設紹介、季節ごとの魅力発信。ライブカメラでタイムリーな公園の状況を把握できる。YouTubeでイベントや自然情報などを配信
- ・上野恩賜公園
園内の文化施設や飲食施設の紹介が充実
- ・イケサンパーク (池袋)
ホームページでの発信に加え、Instagram、Facebook、X(旧Twitter)で高頻度での情報発信

課題

- 指定管理者によるSNSでの情報発信が少ない
- 公園全体 (みどりや各施設) を網羅した情報発信がない
- 来園者に対して情報発信・情報提供できる仕組みとなっていない

考察

- 市民や観光客が行きたいと思う情報発信とはどのようなものか
- みどりや各施設をつなぐもしくは一体的な情報提供をどのように行うか
- 来園者への効果的な情報発信にはどういったものがあるか
- 来園者が自らSNSで発信するきっかけをつくるために必要なことは何か